

水電力の供給

供水

台南園区は、最終的には1日の用水需要量20万トン（一期11.5万、二期8.5万）と予測し、供水機関が給水することに承諾を得ている。園区供水の安定性を確保するため、水会社では現在台南園区の水道供水を下記の二つの水源より相互調配している。

1. 薩頂淨水場から南一三四県道沿いに埋設した管径1200mm専用パイプによる園区使用。

2. 既にある管径1350mmにより烏山頭幹

管園区をとおり、幹管銜接管径800mmの分支管による園区用水支援。

上述両パイプは合計毎日最大輸水能力が28.7万トン以上であり、現在の園区日用水量は約3.45万トンである。その他、水資源の有效利用を確保するため、園区企業の回収率が75%に達するよう督促する他、2003年12月節水サービス団が成立、毎年、5社の使用者に対し節約用水指導を実施している。

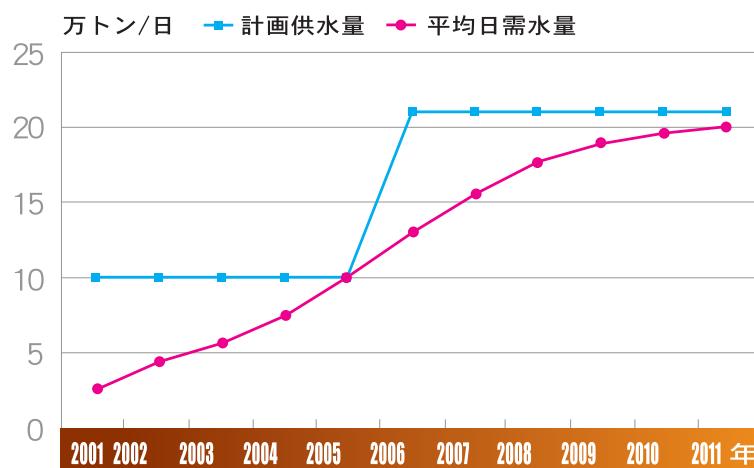


図 5-4-1 台南園区日用水量供需図

路竹園区では最終用水の一日平均の需要量を10万トンと予測し、水道会社は2008年まで園区用水の一日平均の需要量日需水量7.2万トンを用水時程により供給できるとし、2008年以後は増加用

水2.8万トンを経済部水利処から南部新開発水源として供水する。現在、台一省道2000mm輸水幹管分歧1000mm輸水幹管により供水している。

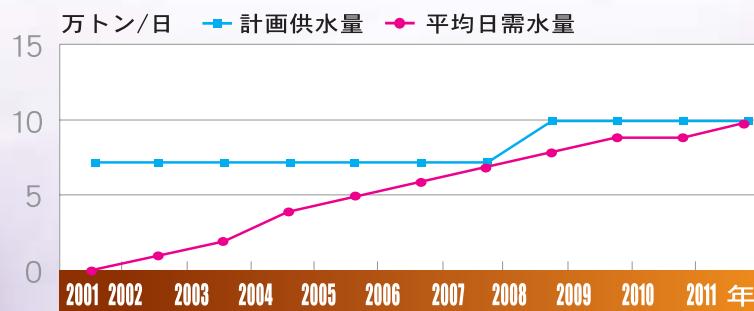


図 5-4-2 路竹園区日用水量供需図

供電

台南園区では2011年までの最終的電力供給量を180万キロワットと予測し、ハイテク企業用電の特性に対応するため、台電は2002年5月、園区に一つの超高压変電所及び4つの一次配電所を建設、200万キロワットの電力を提供でき、輸電線路には多回線輸電を採用、奇美(Chi Mei Electronics)、台積電(TSMC)、聯電(UMC)、瀚宇彩晶(HannStar Display)等161キロボルト使用の会社を環路給電することで、停電の可能性を減らし、優質の良い供電環境を建立している。その他、供電品質向上させるため、本局は学者や専門家に輸電安全検査を依頼して、園区輸電設備を検査し、供電品質チームを設置し、二ヶ月ごとに園区供電品質の検討を行っている。

路竹園区では最終用電量を100万キロワットと予測し、初期計画では区外岡山変電所により供電(2002年6月完成)、22.8キロボルト6万キロワットを供給できる。2004年6月区内路北超高压変電所完成後は、200万キロワットを供給できる。



図 5-4-3 台南園区南科超高压变电所

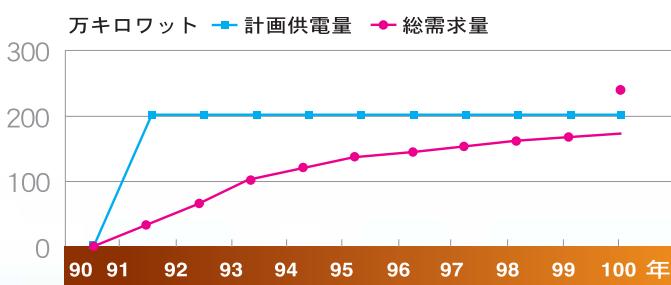


図 5-4-4 台南園区用電量供需図

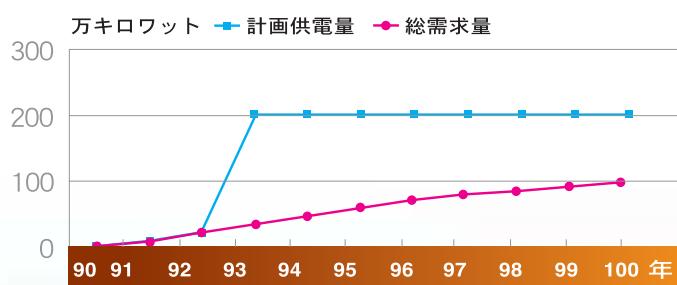


図 5-4-5 路竹園区用電量供需図

工程の執行

台南園区一期公共工程は1996年に施工開始した。2003年に11項工程を着工し、25項の工程を執行した。そのうち、開発工程（道路及び管線システムを含む）計14項、排水防洪工程1項、景観工程4項及び建築工程計6項で、執行工程費は計27.5億台湾ドルとなった。

台南園区二期公共工程は2003年に施工開始した。2003年、西南区開発工程、北側住宅区、東一東二区開発工程、西北区区界緑帯工程及び安順寮排水整治工程（第一期）等5項工程を行い、執行工程費は計8億台湾ドルだった。

道路系統工程

区内計画道路及び付属管線、及び東側、北側、南側の三つの連絡道路はすべて全線開通し、便利で速い交通が提供できる。



図 5-4-6 南側連絡道路

洪水防止排水工程

道爺湖、霞客湖、迎曦湖（洪水対策貯水池A、B、D）工程はすべて完成し、洪水対策貯水池Cの掘り起こしも完成し、洪水防止機能を発揮できる。その他、洪水対策貯水池Dの洪水防止水取りステーション及び洪水防止観測システムも完成し、洪水防止機能が自動化及び正確化された。



図 5-4-7 道爺湖（台南園区洪水防止貯水池A）



図 5-4-8 霞客湖（台南園区洪水防止貯水池B）

景観工程

東西及び南北軸帶景觀、大洲排水綠帶工程、道爺湖、霞客湖、迎曦湖（洪水對策貯水池A、B、D）景觀工程、八号公園等が完成し、区内及び付近の住民に憩いの場を提供している。



図 5-4-9 台南園区標準工場

建築工程

第一、二、三期標準工場（創新一館、創新二館、創新三館）は全て完成し、可提供118の企業に貸し出せる。すでに完成している第一、二期家族用宿舎（馨園）は164の住宅単位、單身室宿舎（華園）は875の単位が園区内員の住宿休息に使用でき、別墅型管理職用宿舎（璞園）25単位はすでに全て完成している。第四、五期標準工場、第二期管理職クラス住宅及び第三期社員宿舎も次々に建設中である。



図 5-4-10 台南園区住宅社区

